

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093300020		
法人名	医療法人 光洋会		
事業所名	グループホーム 城山庵		
所在地 (電話番号)	福岡県宗像市石丸1丁目3番27号 (電話) 0940-33-8966		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月9日	評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	(水光熱費) 15,000円	
敷 金	有(80,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要 (8月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	80 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤間病院・瓜生歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「城山庵」は母体とする赤間病院に隣接して、グループホームと小規模多機能型居宅介護施設が併設されており、一体的な運営がなされている。敷地内の庭は、近隣住民が自由に通り抜けられるようになっており、散歩や日向ぼっこを楽しむ入居者の方々との、会話を楽しむ光景もみられる。母体となる医療法人との連携により、職員育成に充実した取り組みがあり、また医療連携体制の整備による日々の健康管理にも、その連携は活かされている。アットホームな雰囲気の中、地域との交流やボランティアの来訪も多く、多彩な人々との交流が育まれており、日々の暮らしが豊かなものとなっている。現在、地域におけるネットワークづくりに積極的な取り組みがあり、今後の展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果は真摯に受け止め、前回の評価終了後、運営推進会議での報告・助言と職員会議で改善課題を抽出・検討し実践につなげ、サービスの向上に取り組んでいる。今年度は前回の課題の充実を図ると共に、今回の結果を受けて検討会議を予定している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組む事で評価に対する意義や目的を各自が認識し、今後のサービス向上に反映できたと思える。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回委員の方々の協力で定期的に推進会議を開催している。状況報告や外部評価での改善課題など議題を提出する事で助言・指導を頂いたり、地域行事の参加・支援についての話し合いを行い、会議が入居者と地域との交流の要になっている。また委員の方々には入居者やホームの状況を理解して頂く為に、行事や避難訓練・救命講習などに参加して頂いている。議事録についてはインターネット上に掲示している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	入居時には公的な苦情相談窓口や御意見箱の利用について説明している。運営推進会議に家族も委員として参加して頂いており、行事の際には家族に集まって頂き意見や要望を伺っている。家族向けのお便りも発送しており、家族の来所時にはホームでの暮らしぶりや金銭管理についても報告している。今年度は無記名のアンケート調査も行ったのでその結果も運営に反映させたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々とは自治会長を中心に理解と協力が得られており、地域でのお祭りや運動会・文化祭などに参加している。花見や盆踊りには入居者の地元まで出かけるなど、地域との交流は盛んである。また福岡教育大学の学生やボランティアの訪問も多く、入居者は地域の一員としての生活が出来ている。事業所は地域貢献として実習場所の提供や中学生の職場体験を受け入れたり、認知症ケアや地域密着型サービスの啓発にも取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	経営母体である医療法人・光洋会の理念の基に、グループホーム独自の理念を職員全員で話し合い、地域生活の継続と尊厳を重視した理念が作られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	一人ひとりの尊厳と安らぎある生活が「ゆっくり・いっしょに・楽しみながら」できることを職員が共有し実践に取り組んでいる。また様々な問題に直面した時はカンファレンス等で理念に添うものであるか判断し、行動する原点としている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の方々とは自治会長を中心に理解と協力が得られており、地域や学校の祭りや運動会・文化祭などに参加したり、花見や盆踊りには入居者の地元まで出かける事もある。中学生の職場体験を受け入れたり、福岡教育大学の学生やボランティアの訪問も多く、内容は多岐に渡っており地域の一員として充実した生活を過ごしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価については定例会議で取り上げ、共通理解のもと職員全員で取り組んでいる。評価の結果は真摯に受け止め会議を開いたり運営推進会議でも課題として検討を行い、改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期的に推進会議を開催し、入居者の状況報告や事業所の活動状況・外部評価での改善課題などに意見や助言を頂き、地域の行事などの情報を得ている。委員の方々に入居者やホームを実際に知ってもらうために避難訓練や行事、救命講習などに参加して頂いている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会での交流以外にも、入居者の方々の福祉面へのサービス利用については助言・指導を受け、適切に対応出来るようにしている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	職員は事業所内の勉強会での伝達講習や、社会福祉士の職員による講義などで学ぶ機会を確保している。資料についても全員が閲覧出来るように整備している。現在、成年後見制度を活用されてる方もおり、今後も相談には管理者やケアマネージャーが応じるようにしている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月入居者の個別の写真を取り入れた便りと、担当職員が生活状況や健康状態を記入した報告書を家族に送付している。また家族の来訪時に金銭管理やホームでの様子についても報告している。来訪時に入居者とゆっくり話をして頂ける事が何よりの報告と思っているので、お茶を準備したり希望があれば食事の準備をすることもある。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時に公的な苦情相談窓口や御意見箱の利用について説明している。運営推進会議には委員として家族の出席があり、行事参加の際には家族に集まってもらい、要望・意見を聴いている。今年度は無記名のアンケート調査を行ったので、その結果についても検討して行きたい。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	併設の小規模多機能型施設とは、職員のほとんどが兼務しており、全体での馴染みの関係が出来ている。職員の離職対策としては引継ぎを兼ねた人数構成とし、余裕を持って勤務出来るようにしており、現在は特に大きなダメージはない。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用にあたり、特に条件はなく20～60歳まで幅広く採用している。職員は入居者の担当係や、行事担当・交代での食事担当など責任を持って仕事に取り組む事で多くの学びがあり、自己研鑽の場になっている。パート職員も定例会や法人の研修会なども同等の機会を与えられている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の「安心と尊厳ある生活」を事業目的の一つとしており、日頃から入居者の人権尊重については研修や実践での指導をしており、実務研修をはじめ外部研修には職員を参加させその資料等はいつでも閲覧出来るようにしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人内外の研修会には積極的な参加を勧めており、職員もその機会を自分の技術向上に活かしている。実践での取り組みは、入居者の方々のケアや行事担当時の一連の流れの中で、管理者や同僚の意見や指導を受ける事でお互いが学びあっている。		法人内在宅部の教育委員会により、年間計画を立て研修会や勉強会が行われている。今年度は内容を精査し、習熟度や経験に合わせた教育計画及びチェックリストを作成するなど、教育体制を更に充実させるために準備中とのことである。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者の見学が多く快く受け入れている。地域密着型サービス事業所連絡会を設立し、定期的な連絡会を開催しており、今後は研修や発表会を予定しており、その事が職員間の交流の機会になると考えている。行政との協働により、より実践的な交流となるよう、今後の展開に期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家族と入居者にはゆっくりと思いや希望を伺い、見学や体験入所が入居者と話をしたり雰囲気に触れ、不安なくサービスが利用出来るよう回数や時間帯を制限せず様々な要望にも出来る限り対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の得意な事を見極め、発揮出来る場面を多く持つように配慮しているがその中で職員は学ぶ事も多い。行事についても司会や準備の段階で参加して頂いている。入居者同志の話には見守る事でお互いの思いや相手に対する励ましなど学ぶ機会となっている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	職員は入居者に常により添い、馴染みの関係を持つ事で意向や要望が把握出来一人1人の持てる力を見出し、活動状況が豊かになると考えている。またセンター方式を担当職員が利用する事で情報の内容が豊かになりそれを職員全員で共有する事が良い支援に繋がると考え実践している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者が自分らしく暮らせるよう、本人・家族の意向や思いを計画作成者や管理者・担当職員が話し合い、計画に反映させるようにしている。他のスタッフは日々の申し送りの中で意見を述べたり情報交換を行っている。また毎月担当職員が計画を評価・記録するシステムとなっている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	評価を基に必要なに応じプランの見直しをするようにしている。管理者やケアマネージャーは状態の変化があったときには代表者も含めた本人・家族の意見交換の場を設けている。その上で新たな計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	訪問看護ステーションと契約し医療連携体制を取っているため、入院を極力避けられるよう医療処置を受けながらの生活支援を行っている。併設の小規模を入所者の友人が利用されるときはいっしょに過ごす時間を作っている。また希望があるときは協力病院の売店での買い物にも一緒に行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医の選択は本人・家族の希望を優先している。医療連携体制による健康管理や、緊急時の対応時も訪問看護師と協力しており、かかりつけ医への報告や指示は確実に実施出来ている。受診は基本的に家族同行になっているが、場合によっては職員が同行受診し家族へは電話連絡をしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時の契約時に、事業所として重度化に伴う「看取り」指針を説明し同意を得ている。現在のところ対象者がなく、まずは職員が「看取り」についての方針を共有すると共に体制作りが重要と思える。法人内の充実した連携を活かしながら、今後の取り組みに期待したい。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーの確保は入居者の尊厳と権利を守るための基本であるので、特に日常のケアでは一人ひとりの状況に合わせた対応を心掛けている。記録については鍵のかかるキャビネットに保管し、居室のドアのガラス部分は本人の希望で目張りをするなどの対応をしている。今後もプライバシーや個人情報の保護については勉強会を計画している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの生活のリズムを大切に、出来る限り本人の意向に添った支援を行い、その事で心の安定が図れており、リスクを伴う場合は家族とも話し合い、より安全面を配慮した支援になるように工夫している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は入居者にとって生活活動の場であり、本人の力を少しでも発揮出来、その事が喜びや楽しみになるように支援している。献立は季節の物を取り入れ、主食の選択や嫌いなものは代用品にしたり量の調整等を行っている。またコーヒータイムを設けたり、いつもいっしょに職員と共に準備から後片付けまで行う事で、良いコミュニケーションの場になっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日午後1時15分より入浴出来るよう準備し、入浴の意向を伺い、入浴の過程でも本人の力が少しでも発揮出来るよう支援している。またバスタブ風呂や入浴剤の日を決めたり、交友関係などを把握し楽しい気分で入浴出来るよう順序についても気を配っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の楽しみや希望を生活歴や日頃の会話の中から聞き取り、特技を活かし役割を持って楽しく自発的に行えるよう支援している。職員は積極的にアプローチするために賞賛や感謝の言葉掛けを忘れないようにしている。誕生会は職員も含めたお祝いとしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や健康状態を考慮して、ほぼ毎日庭園やホームの近所に散歩に出かけている。その際近所の方たちとお付き合いや会話もある。ホームの買い物にも同行したり、行事も多いので外出の機会は確保出来ている。家族には理・美容や衣料などの買い物の同行を願ひし、その時には外出着に着替えお化粧品も勧めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間のみ施錠するが日中は施錠してない。外出傾向のある入居者には、小規模多機能施設の職員を含めた全職員が声かけや見守りを行っている。また鍵を掛けない支援が入居者の安心感や開放感・尊厳に繋がっており、身体拘束や虐待への関連について職員が認識するように指導している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力で避難訓練や救急対応訓練を行い、職員がマニュアルに添った行動が迅速に行えるよう、評価・指導を受けている。運営推進会議でも災害時の対応について検討され、地域の協力体制は整っている。また備蓄品の整備もマニュアルに添って準備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況に合わせ量や形状・調理法・容器や補助具の使用など工夫している。食事は入居者の方々への重要な支援と考え、今年度はバランスが取れた食事であるか献立表の検証を行ったが特に問題はなかった。食事や水分摂取量については健康管理表に記入し、体重測定も月一回測定している。		

グループホーム 城山庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	建物はバリアフリーになっており、共用部分は清潔な環境が維持されている。玄関やフロアには花や季節の飾り物を置いて季節感を取り入れている。特に音声には注意し、テレビや音楽が入居者にとって心地よいものであるよう心掛けている。オープンキッチンからは調理の様子が入居者の視野にあり、一日の流れが常感ぜられる環境にある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	エアコン・カーテン・ベッドは既存のものであるが、他は自宅で使い慣れたものや、大切な写真・飾り物を家族に持参して頂いており、自宅での生活の継続となるよう支援している。また家族との関係維持を大切にすため、衣類の出し入れや整理などをお願いしている。居室からの眺めは花壇や畑の成長が見られ、季節を感じることができる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			